

色と Color の比較を通じたイディオム研究

● 中 田 詩 乃

I 序論

目で直接見る色と画面を通して見る色は異なるが、肉眼で見える色は約750万色、分類で区分すれば約187万5000色が存在すると近江(2009)は述べている。数えきれないほどの色を整理し、同系色にまとめる方法は言語・文化・国によって異なる。今回色を題材にした背景として、大学で受講していた異文化に関する講義の中で色が与える印象について取り扱った分野があり、具体的にどのようなものがあるのか調べてみたいと思ったのが理由にある。国によってりんごが緑の代表例だったり、太陽の色は白と考えられている言語もある。これらのことを意識し、「色に関する日本語と英語のイディオムを比較すること」を本稿の目的とする。

色の定義を述べた後、まずは色彩のイメージを個々の色ごとに考えられる限り論述していく。色のイメージは人によって感じ方が違うかもしれない為、その点はご了承頂きたい。またそれぞれのイディオムの由来を調べればその色が使われる背景が理解できるかもしれないが、日本語と英語の比較を分かりやすくするため、色の持つ印象を始めに述べることにする。イディオムの意味・例文は筆者が日本語に訳すことにした。

II 本論

II-1 色と color～辞書的定義～

「色」の定義

『大辞泉』(1998)並びに山田(1997)によると、色は青や赤などの単なる色彩だけでなく、容姿の美しさ・ものの趣・様子など事物の外観的な状況を表すという。人の感情の動きを「顔色」と言うように、色だけに意味が限定された表現だけではないことが分かる。さらに男女間の愛情や恋愛の他、種類(例えば「十人十色」など)や品目を表す際に使われることもあると述べる。

色という漢字は「人」と「巴」からできており、「人」は男、「巴」は女の座っている美しい姿を表すと言われている。語源辞典(2011)によると色の語源は血の繋がりがあることを表す「いろ」で、兄を意味する「いろせ」、姉を意味する「いろね」などの「いろ」である。のちに男女の交遊や女性の美しさを称える言葉となった。さらに美しいものの一般的名称となり、その美しさが色鮮やかさとなって色彩そのものを表すようになった。この説が正しければ「色恋」や「色事」「色好い」など、日本語の「色」が男女間の愛情や恋愛を表してもいいと考えられる。

“Color”の定義

『ランダムハウス英和大辞典』(1993)によると、colorは「色彩・皮膚の色・特に顔色、顔を赤らめること・生き生きとした感じ・モノの特徴・絵の具・学校やクラブなどの特定団体の固有の色・外観・様子・口実・色調・表現上の権利・貴金属の微量・紋章に使われる原色など」とある。

総じて color の場合英米人は視覚的に色を感じているが、日本語の「色」の場合はそれに加えて「男女間の愛情や恋愛」の意味も含まれていることが分かる。「色」は color より広い意味を持つと言える。

Ⅱ-2 日英の色彩語の比較

Ⅱ-2-1 青と blue

- ・プラスイメージ→幸福（童謡『青い鳥より』）、聡明な、知性、若々しい、新鮮（青の中でも水色が近い）、空、海、平安、冷静
- ・マイナスイメージ→未熟、悲しみ、落ち込んだ気分、冷たさ、憂鬱、陰鬱、失望

○青=blue の表現

- ・ blue bird（幸福の象徴の青い鳥）・ blue print（青写真）・ blue moon（ブルームーン…大気中の塵の影響により月が青く見える現象）

○日本語にすると青=blue に「直接は」つながらない表現

- ・ green light（青信号）・ green apple（青りんご）・ greenery（青果）・ green grass（青草）・ youth（青春）・ green caterpillar（青虫）・ green hole（青二才）・ blue film（卑猥な映画）・ blue stockings（才女…学識ある婦人たちが青い靴下を履いていたことから）・ blue brick university（名門大学）

※青について補足①～郵便ポスト～

一般的に青はヨーロッパや中南米で好まれ、南米の国旗には青が多く使われている。郵便ポストの色は日本では赤がほとんどだが、アメリカでは青である。（山田1997,p.59）

※青について補足②～信号機～

交通信号は「赤、黄、青」（実際の色は緑だが、一般的に青と言われている）の三色であるが、英語では red, yellow, blue ではなく red, amber（琥珀色）、green（緑）と言う。身近な交通信号の色にもこのように色彩感覚のギャップがみられる。（山田1997,p.59）

※青について補足③～青蛙～

芥川龍之介の俳句で「青蛙 おのれも ペンキ塗りたてか」というものがある。俳句において夏の季語である青蛙は、blue frog とは言わず greenfrog が正解である。日本語の「青」と言っているものには実は「緑」が多く含まれている。例として青葉・青木・青田・青信号などの「青」は実際は「緑」を指している。（山田1997,p.73）

※青について補足④～青や緑の意味を含まない、日本語の青の表現～

青田刈り・青息吐息など「青」のついた表現はあるが、意味の観点からは blue の意味も green の意味も含まれていない。

ex) 青二才→greenhorn（青や緑の意味は言葉にはない。）

- ・ 青写真（設計、計画の意味）→blueprint（「設計、計画」の意味として見ると青の意味はない。）

【青に関するイディオム】

○once in a blue moon (OR to appear/happen out of the blue) 「思いがけず、突然に」

由来：空中のちりによって、稀に月が青く見えることから

意味：

1. to happen unexpectedly, usually after a long absence
(たいてい長い間があってから、予想していなかったことが起こること)
2. to happen very suddenly and unexpectedly (突然予想してなかったことが起こること)

例：

- ・ My brother suddenly appeared out of the blue yesterday. We hadn't seen him for years. (思いがけず昨日弟に会った。数年間お互い会っていなかった。)
- ・ I was driving home when out of the blue a deer jumped out in front of my car. I braked just in time to avoid it. We were both very lucky not to be hurt. (車を運転していた時、鹿が突然目の前に飛び出してきた。ちょうどその時にブレーキを踏み、避けることができた。怪我がなかったのはお互い幸運だった。)

○to blue pencil something 「検閲する」

由来：blue pencil (昔、検閲官が青鉛筆を使って検閲したことから)

意味：to censor something (何かを検閲する)

補足：blue pencil が単体の場合、「文字や文章を直接修正する」という意味。(日本では青ではなく「赤を入れる」や「赤鉛筆で訂正する」という。)

例：Reports on the mistreatment of the political prisoners were blue penciled by the authorities. (政治犯に対する酷使の報告は、公共事業機関によって検閲された。)

○a blue-eyed boy 「雇い主や勢力家のお気に入りの男の子、秘蔵子」

意味：critical description of a boy/young man who has been singled out for special favors by someone in authority (権力のある人の特別な好意によって引き抜かれた男性のことで、批判的に描写される。)

同義語：fair-haired boy (直訳：金髪の男の子)

例：John is a real blue-eyed boy. The team manager always gives him special treatment. It isn't fair to the rest of us. (ジョンはお気に入りの男の子である。チームのマネージャーはいつも彼を特別扱いしている。残りの私たちにとっては公平ではない。)

○a bolt from the blue 「青天の霹靂」

意味：some unexpected bad news (予想していなかった悪い知らせ)

例：

- ・ It came like a bolt from the blue that they are getting divorced.
(彼らが離婚しそうだということは青天の霹靂だった)
- ・ The announcement came like a bolt from the blue. (その発表は寝耳に水だった。)

○to look/feel blue 「寂しがる、憂鬱になる、落ち込む」

意味：to look/feel depressed or discontented (意気消沈や不機嫌にみえたり、感じたりすること)

例：Things are looking blue for Tom these days. His wife has left him.

(ここ最近トムは落ち込んでいる。妻が出て行ってしまったからだ。)

○blue in the face 「疲労 (緊張、激怒) して、疲労 (緊張、激怒) でへとへとになって」

直訳・由来：人の顔が青くなるまで。(要するに疲れて顔の血の気がなくなるまでという意味)

意味：to make a huge but vain effort to win a person's agreement

(人の同意を得る為に力を尽くすが、無駄な骨折りでであるということ)

例：

・ I told him he was making a mistake until I was blue in the face but he wouldn't listen.

(私はへとへとになるまで、過ちを犯していると彼に言ったのに、彼は聞こうとしなかった。)

・ till one is blue in the face (精根尽きはてるまで)

○once in a blue moon 「ごくまれに、めったに～ない」

意味：to occur extremely rarely or only once in a life-time (人生で一回か、または滅多にしか起こらないこと。)

例：My brother only rings home once in a blue moon. I wish he would ring our parents more often. (弟は滅多に家に電話をかけることがない。もっと両親に電話をしてくれれば良いのに。)

○blue blood 「高貴の血筋、貴族・王族の家柄」

直訳：青い血

例：She's pure bred blue-blood you see. Unfortunately that's no sort of put-on but her natural self.

(彼女は見てわかるように育ちが高貴な血筋である。残念ながらあれは彼女が気取っているのではなく、自然体なのだ。)

由来：8世紀から15世紀にかけてスペインはムーア人(アフリカ北西部のイスラム教徒)によって占拠されていた。その長い占拠の中で混血が進み、肌も有色化したが中には「純血のスペイン人」を貫いた貴族もあり、その肌が透き通るように白く静脈が見えるほどであったことから「青い血」と呼ばれたのが、起源と言われている。

○blue movie 「ポルノ映画」

直訳：青いフィルム

補足：日本語の多少古い言い方ならピンク映画。英語の pink が赤ちゃんの肌や健康的な顔色というようなプラスイメージを持っているのと対照的である。他に blue joke, blue humor 「猥褻な冗談」がある。

○the men [boys, gentlemen] in blue 「警察官」

意味：the police because of the color of their uniforms (青色の制服より警察官を指す。)

例：“Let's get out of here! The boys in blue are coming.”(早くここを出よう！警察官が来るぞ。)

【青に関する分析】

青=greenの表現が日本に多い。また日本語の青のイメージは「冷たい」や「悲しみ」などのマイナスイメージの印象が強い。その一方で英語の“blue”は幅広い意味で使われ、「聡明」などのポジティブなイメージも多い。なぜ英語の印象としてマイナスイメージだけではないのかというと、ヨーロッパでは一般に青が高貴な色とされているからだ。イギリス王室のカラーはロイヤルブルーであり、イギリス国旗にも使われている。ロイヤルブルーとは鮮やかな紫みの青、つまり青に少し紫を加えることで青に深みが増したような色のことを指すが、カラーコンシェルジュの上野（2013）によるとイギリスは海に囲まれた国家で、7つの海を支配したことから海の色である青を王室の色に定めたとのことだ。

また分析の2点目として青が使われている日本語の表現を英語に置き換えると、“green”になる表現が多い。山田(1997)によればこれは昔、日本では習慣的に青と緑の区別が厳密にはなく、緑は青の一部とみなされていたことから来ているという。このような概念があったことによって、言葉の表現にも違いが生じたことがみてとれる。例えば「青葉」、「青物」、「青竹」、「青豆」、「青虫」や「青梅」という言葉も、緑の色素を持っているものであるが青で表現されている。このように日本語の「青」は「緑」の部分もいくらか含んでいることが単語の中からでも理解が出来る。

II-2-2 緑と green

- ・日本語のプラスイメージ→生、若さ、みずみずしい、成長、安全、春
- ・日本語のマイナスイメージ→（特になし）

- ・Englishのpositive image→希望、喜び、春、青春
- ・Englishのnegative image→奇怪さ、嫉妬、未熟

○緑=greenの表現

- ・greenbelt（緑地帯）・green peas（グリーンピース）・緑地（a green tract of land）

○日本語にすると緑=greenに「直接は」つながらない表現

- ・green old age（元気老人）・greenback（ドル札…1862年発行のアメリカ紙幣の裏側が緑だったことから。long greenとも言う。）・green power（金力、財力）・green-eyed monster（嫉妬…シェイクスピアの『オセロ』の中の「緑の化けもの」から）・green house（温室）・in the green tree（順境で⇔逆境はin the dry tree）・green ice（エメラルド）・green bag（弁護士…昔、弁護士は緑色のカバンを持って歩いてたことから）・little green man（宇宙人）・a green Christmas（雪のない温暖なクリスマス）・green fish（生魚）・green fruit（未熟な果実）・green liquor（成熟していない酒）・green cheese（できたてのチーズ、生チーズ）

※緑について補足 ～大学の学部の色～

山田（1997,p.67）によるとアメリカの大学の中で、学部ごとにフード（hood）の色が異なる大学がある。その中でも医学系の学部は緑で表現されている。日本では医者や看護婦は白衣の白色だが、ローマ時代にも緑色であったことから今も引き継がれているようだ。その他にも農学（Agriculture）はトウモロコシ色（黄色）など、それぞれの学問に色があり、取り入れている学校があると説明している。

【緑に関するイディオム】

○greenhorn 「初心者、騙されやすい人」

直訳：緑の角

例：There are step-by-step instructions to help you if you are a greenhorn.

(あなたが新米であるならば、段階を追って示した指導書があなたを助けるものになる。)

由来：緑は若葉から連想する新鮮で若々しいという意味があり、a green old age 「若々しく元気な老齢期」というプラスイメージの慣用句を作る一方、実が熟していない果物を連想する未熟で騙されやすいというマイナスのイメージもある。もとは子牛の角が青白く緑色をしているのが起源。

○green-eyed monster/green-eyed jealousy 「嫉妬」

直訳：緑の目の怪物

由来：ウィリアム・シェークスピアから生まれた言葉である。

例：1. シェークスピア『オセロ (1603年頃)』のイアーゴの台詞より、

O, beware, my lord, of jealousy ; (将軍、お気をつけ下さい。嫉妬というものに。)

It is the green-eyed monster which doth mock

The meat it feeds on.

(それは緑色の目をした怪物で、ひとの心をもてあそび、餌食にする。)

(Othello III iii)

例：2. シェークスピア『ヴェニスの商人 (1594~97年頃)』より、

How all the other passions fleet to air, (あらゆる他の感情が空へ消えてゆく、)

As doubtful thoughts, and rash-embraced despair,

(おぼつかない心も、すぐに陥る絶望でさえも、)

And shuddering fear, and green-eyed jealousy ! … (続く)

(身震いする不安も、緑色の目をした嫉妬も。)

(The Merchant of Venice III ii)

○to be green 「無経験な、未熟な」

意味：inexperienced, immature (無経験、未熟)

例：1. He is rather green and doesn't have enough experience to drive the large piece of machinery yet. (彼はやや未熟で、大きな機械を操る経験が十分でない。)

例：2. He is a green hand. (彼は未熟者だ。)

○green with envy 「ひどく妬んで、羨ましがって」

意味：full of envy, very jealous (とても嫉妬している、羨んでいる)

例：I was green with envy when I heard that she would be going to London for a month while I had to stay and work. (私は仕事をしていないといけなかったのに、彼女はロンドンに1ヵ月行くと聞いてとても羨ましく思った。)

○give someone the green light 「承諾を与える、許可をする」

意味：give permission to go ahead with a project (企画を進める許可を与える)

例：We were finally given the green light to begin setting up the new project.

(私達は最終的に新しい企画を作り始めるための許可を貰った。)

○get the green light 「了承を得る、GOサインをもらう」

意味：receive permission to go ahead with a project (企画を進める許可を貰う)

例：We got the green light to go ahead with the new advertising campaign.

(私達は新しい広報キャンペーンを進めるための了承を得た。)

○grass is always greener on the other side 「実際はそうではないかもしれないのに、他人のものはよく見えてしまう」

直訳：隣の芝は青く見える

意味：a place that is far away or different seems better than where we are now

(自分がいる場所よりも遠くにあったり、違うタイプの場所の方がよく見えること。)

例：He realized that the grass is always greener on the other side when he saw that his new job wasn't perfect and had its own problems too.

(彼は新しい仕事が必ずしも目指すものではないと知ったとき、他の仕事が魅力的に見えてしまい、自分にも問題があるのだと悟った。)

○green belt 「(都市周辺の) 緑地帯」

意味：an area of fields and trees around a town

例：The city has a policy of increasing the green belt around the city.

(この町は町の周りを緑地帯に増やす政策がある。)

○green fingers (=thumb) 「植物を育てる才能、園芸の才」

直訳：緑の指(親指) → 「野菜を栽培する才能」

意味：a talent for gardening, ability to make things grow

(モノを育てる能力や園芸の才能)

補足：スラングとして「金儲けの才能」という意味もある。ドル紙幣が緑色であることから Show me the green. (お金を返してよ。) の green と同じで、“He has a green thumb.” (彼は金儲けが上手い) という意味になる。

例：She has a green thumb and is able to grow one of the best gardens in our neighborhood.

(彼女は園芸の才があり、近所の中でも一番素晴らしい庭を作り上げることができる。)

※「青と緑」について補足

『青=green の表現』

- ・ a green paddy field (青田) ・ a green tree (青木) ・ greens (青草) ・ greens (青菜) ・ green laver (青海苔) ・ green caterpillar (青虫) ・ green-grocery (青物屋 (イギリス英語))

『青が blue でも green でもない表現』

- ・ raw smell (青臭い匂い) ・ challenger's box (青コーナー) ・ turn pale (=pallid,white) (青ざめる) ・ an open-air (青空) ・ an open-air concert (青空コンサート)

【緑に関する分析】

他の色と違って緑の場合はイメージが英語と日本語で若干異なることから、英語からくるイメージと日本語からくるイメージとで分けてみた。希望や喜びなどのイメージは日本にはあまり見られないものである。そしてやはりここでも青色のケースと同様に、青色に関する表現が緑色で表していたり、またその反対のパターンの表現が緑色の分析においても見られた。日本語と英語を比較してみると、それぞれの言語とともに青と緑のイメージの概念が混同しているのを伺い知ることができる。そして日本語の緑はマイナスイメージがない一方で、英語にはマイナスイメージもポジティブなイメージもあり、緑のイメージは幅広いことが見てとれる。

II-2-3 赤と red

- ・ プラスイメージ→活発、情熱、熱血、慈善、太陽の色、愛、祝賀、革命
- ・ マイナスイメージ→危険、流血、危険、怒り、過激、家事、(経理上の)赤字

○赤=redの表現

- ・ red tide (赤潮) ・ red cap (赤帽) ・ in the red (赤字)

○日本語にすると赤=redに「直接は」つながらない表現

- ・ reds-hands (殺人罪) ・ red rag (人を怒らせるもの [原因]) ※雄牛に見せる赤い布から来ている。

※赤について補足①～太陽の色～

山田 (1997, p. 59) の著作の中で、興味深い内容があったので以下に述べることにする。

日本の国旗の日の丸のように「太陽の色は赤い」と捉えているのは、日本と東欧スラブ語の地域だけのようで、英語やヨーロッパの言語などでは「太陽の色は黄色」として捉えられているとのことだ。アメリカやヨーロッパの学校で子どもに太陽の絵を描かせると、日本人の子どもだけが太陽を赤く塗る。このような太陽に対する色彩感覚の相違から、学校で友達から嘲笑されたりして、遂に登校拒否に陥った日本人の子どもがいたそう。世界を視点に考えると色彩感覚に差があり、このような日本人発想は通じない時もあると考えられる。「太陽が赤」である文化の日本では「月は黄」であり、「太陽が黄」である文化の国では「月は白」なのだと言っている。

※赤についての補足②～信号機とポスト～

山田 (1997, p. 61) によると交通信号の「赤」が「止まれ」を意味するように共通する客観的な伝達をする場合もあれば、同じものでも国、地域、民族などによっては信号機の「赤」が「黄色」で表現されていると述べている。つまり黄色が「止まれ」の国もあることだ。この色彩感覚は世界各国共通ではなく、「所変われば色変わる」と彼は考えている。この彼の考え方に筆者も同意する。例を挙げるとするならば、日本のポストは遠くからでもよく見えるようにと赤色が使われているが、中国は深緑、ドイツは黄色、アメリカは青色など国によって様々である。こういった信号機など日常に存在しているものの中からでも、色彩を含む異文化を我々は感じることができるということだ。

【赤に関するイディオム】

○to be in the red 「赤字を出している」

意味：to have an overdraft, to be in debt (当座貸し越し、借金があること)

例：I am overdrawn again. I hate being in the red.

(私はまた借越をしてしまった。だが赤字のままにはなりたくない。)

○to catch someone red-handed 「人の悪事の現場を見つける、人を現行犯で捕える」

直訳：ある人を赤い手 (= 血が手に付いている) の状態で捕まえる

意味：to catch someone in the act of committing a crime, usually a theft

(よくあるのが窃盗だが、罪を犯した人を捕まえるときに指す)

例：The manager caught the new employee red-handed taking money out of the box.

(支配人はお金を盗んだ新しい従業員を、その場で捕まえた。)

○to see red 「かっとなる」

意味：to react with uncontrollable rage against someone or something

(人・事柄に対して手に負えない激怒で反応すること)

例：John saw red when he saw his girlfriend laughing with another guy.

(ジョンは自分の彼女が他の男と笑っているのを見て、かっとなった。)

○red tape 「官僚的形式主義、お役所流」

意味：bureaucratic and excessive to rules and regulations, often resulting in injustice to the ordinary citizen

(官僚的で極端な決まりや規制、しばしば一般市民にとって不公平な結果になる。)

直訳：赤いひも

由来：18世紀初めにイギリスで公文書を束ねるのに使われた赤いひもに由来。red tape から派生し redtapism (官僚主義)、redtapist または redtaper (官僚主義者／形式主義者)、cut red tape (官僚主義をやめる) などの言い方がある。

例：I want to start a new business but the red tape involved is very frustrating.

(新しいビジネスを始めたいが、官僚的形式主義に縛られておりいらさせられる。)

○to see the red light 「危険が迫るのを感じる」

意味：to recognize approaching danger, the red light being a danger signal

(危険が迫っているのに気づく。赤い光は危険の信号を指す。)

例：When the doctor warned his patient that further drinking would damage his liver, the man saw the red light and quit. (医者は患者に飲みすぎは肝臓に悪いと忠告したとき、その患者は危険だと分かり辞めることにした。)

○paint the town red 「(俗語) どんちゃん騒ぎをする」

意味：go out and party and have a good time (外にでてパーティーをしたり良い時間を過ごすこと。)

由来：町にペンキを塗って赤くする

同義語：a night on the town, enjoy a night on the town, celebrate with a night on the town

例：When my cousin came to visit us we decided to go out and paint the town red.

(甥が私達に会いに来た時、外出してどんちゃん騒ぎをすることにした。)

由来：由来は諸説ある。イギリス・レスターシャー州の町で酔った貴族たちの蛮行から。ローマ時代、ローマの兵士たちが征服した町を血で洗ったから。売春宿の赤ちょうちんから。町ではしご酒をして赤字になることから。酔っ払って町が赤く見えるから。町で流血騒ぎになるほど飲むから等々。

○roll out the red carpet for 「～を丁重にもてなす」

意味：greet a person with great respect, give a big welcome

(とても尊敬している人を熱く歓迎する。)

派生語：red-carpet treatment (丁重なもてなし)

例：When Nelson Mandela visited Washington, they rolled out the red carpet and gave him a great welcome. (ネルソン・マンデラがワシントンを訪れた時に、彼らは丁重にもてなし、熱い歓迎をほどこした。)

○a redneck 「(軽蔑的に) 田舎者、労働者」

意味：an ignorant, insensitive person (無知で鈍感な人)

例：Our new co-worker is a real redneck. He doesn't seem to know anything about life.

(新しい同僚は本当に田舎者だった。本当に何も知らないように感じた。)

【赤に関する分析】

目に止まりやすい色であり、標識などで使われている「主張」のある色である。その印象があるからなのか、曖昧なイメージを持たない。前述した赤色のイメージから例を挙げるとするならば「情熱」という言葉は良い印象のものであり、「赤字」という語は明らかに印象の悪い言葉である。よって赤の印象というのは他の色と比べて、確実にプラスであるイメージと、明らかにマイナスであるイメージとがくっきりと分かれている特徴があると考えられる。そしてそのような赤色の分析をすることによって、国によって「太陽」や「ポスト」の色など、モノによっては違った色を使用していることが分かる。

Ⅱ-2-4 黄色と yellow

- ・“明るい黄色”のイメージ→(太陽に属している色の印象から) 知性、善、信仰、神性
- ・“暗い黄色”のイメージ→反逆、背信、野心、不信

※黄色についての補足

ブラジルでは黄色は絶望、回教では死、フランス語では苦笑い、ブラジルでは嫉妬を意味する。一方で中国やインドは高貴な色として考えられている。黄色は皇帝しか着られない色であり中国には黄河や黄砂があることから、中国で黄色は大地の色を象徴する色である。「大地を支配した者」ということから皇帝の色になったと考えられている。

○黄色=yellow の表現
・ yellow fever (黄熱病)

○日本語にすると黄色=yellow に「直接は」つながらない表現
・ a green cherry, an unripe cherry (黄色いサクランボ) ・ a high-pitched voice (黄色い声)
・ yellow dog (野良犬) ・ Yellow Book (予防接種証明書) ・ Yellow Pages (職業別電話帳)
・ yellow sheet(前科、前歴、犯罪記録) ・ yellow-covered (くだらない、つまらない、安物の) ・ yellow alert (第一次警戒警報) ・ yellow journalism (扇情的で低俗なジャーナリズム※黄色刷りの Yellow Kid という最初のカラー漫画がその名の由来。) ・ the yellow press (扇情的で俗悪な新聞)

【黄色に関するイディオム】

○yellow-bellied 「臆病な、腰抜けの、腹部が黄色の」

意味：extremely timid, cowardly (極端に臆病であること)

直訳：黄色い腹

由来：英語の yellow には「臆病な」とか「扇情的な」という印象があることから。

例：He is a yellow-bellied coward and never is willing to fight for what is right.

(彼は臆病であり、正しいことがあっても決して戦いたいと思わない。)

○a yellow streak/have a yellow streak down one's back 「臆病な気質、卑怯なふるまい」

意味：cowardice in character (臆病な性格)

由来：アメリカでは黄色い縞 (yellow streak) のある犬は臆病と考えられていることから。また yellow-dog には「卑屈な」という意味がある。(『日本大百科全書』(小学館)より)

例：He has a yellow streak running down his back and is not a good person to expect to support you when things become difficult. (彼は臆病であり、状況が困難になりそうな時にはあなたを助けてくれそうな良い人ではない。)

【黄色に関する分析】

他の色と違い、黄色の場合はレモンイエローや黄金 (こがね) 色のように、明るい黄色か暗い黄色かによって、良い印象か悪い印象か分類しやすいことが分かった。

ちなみに中世ヨーロッパにおいて黄色というのは、イエス・キリストを裏切ったイスカリオテのユダの着衣の色が黄色だったことから、あまり好まれない色である。このため黄色のイメージで挙げたように「汚辱」「裏切り」「卑劣」「臆病」といった悪い印象もある。よって、現在でも西欧では黄色を第一のナショナルカラーとする国はあまりない。あったとしても国旗・紋章において用いる黄色は、金色の代替色であることが多いとされている。

そして交通標識や工事現場の標識などで多く使われる、「黄色と黒」の組み合わせを一般に「警戒色」と呼ぶが、この組み合わせは非常に目立つコントラストであり、視認性の高い組み合わせである。色の中でも一番明るい太陽の色である黄色と、一番暗い補色関係にある闇夜の色である黒を組み合わせる事で、視認性を高めているというわけだ。

Ⅱ-2-5 白と white

- ・プラスのイメージ→純粋な、清廉潔白な、清潔な、無罪、真実
- ・マイナスイメージ→からっぽの、幽霊、死、空虚

○白=white の表現

- ・ white fish (白身魚) ・ white cell (白血球) ・ white paper (白書) ・ white sugar (白砂糖)
- ・ white out (目の前が真っ白になる) ・ make one's name white (汚名をそそぐ、雪辱する)
- ・ white feather (臆病者、臆病) ・ a white dot (白星) ・ white book [paper] (政府発行の報告書、白書 ※白い表紙をつけることから。)
- ・ show the white feather (おじけづく、臆病風に吹かれる ※尾に白い羽根があるおんどりは闘鶏に弱いという説がある。)

○日本語にすると白=white に「直接」はつながらない表現

- ・ a white day (吉日) ・ white girl (コカイン) ・ white coal (エネルギー源としての水、水力、電力) ・ white night (眠れない夜。白夜ではない) ・ white heat (極度の緊張) ・ white market (公認市場⇔black market) ・ white crow (珍しいもの) ・ white matter (脳の「白質」から転じて、頭脳) ・ He is not guilty. (彼は白 (=無罪) だ。→He is white. は通常「彼は白人だ」という意味。)
- ・ get it settled once and for all (白黒を付ける) ・ give a person a cold stare (白い目で見ると見る) ・ grin (白い歯を見せる) ・ have a fair complexion ((肌の色が) 白い。)
- ・ cast a chill over ((座が) 白ける。)
- ・ a blank paper (白紙の答案) ・ go back to the drawing board (白紙に戻す) ・ polished rice (白米) ・ a white party (反革命児⇔a red party)

【白に関するイディオム】

○as white as a sheet 「恐怖で真っ青になって、血の気が失せて」

直訳：シーツのように白く

意味：in a state of great fear (恐怖の状態)

例：You look like you've just seen a ghost. Your face is as white as a sheet. (幽霊をみたような顔をしているよ。顔が真っ青になっている。)

○white elephant 「厄介者」

直訳：白い象

由来：タイの王がいくつかの白い象の中でも見た目が悪いなどあまり価値のないものを敵への贈り物として献上したことに起源がある。贈られた側は粗末に扱うこともできず維持費が高んでやがて破綻してしまう。それが目的でわざと白い象を贈ったと言われている。

意味：a useless possession (役に立たない所有物)

例：The new stereo that he bought is a white elephant and he doesn't need it at all. (彼が買った新しいステレオは役に立たず、もう必要とはしなくなった。)

○white as a ghost 「真っ青になって。真っ白で。血の気のない」

意味：very pale because of fear, shock, illness etc. (恐れや衝撃、病気で青白くなること)

例：My sister became white as a ghost when she saw the man at the window.

(窓から男の人を見たとき、妹が真っ青になった。)

同義語：be in white terror (恐怖で真っ青になる)

○a white lie 「罪のない嘘」

直訳：白い嘘

由来：白＝無垢 (innocent) のイメージにあることから生まれたと言われている。

意味：a harmless lie (told to be polite or to do something not seriously wrong)

(害を与えない嘘。傷つけないように伝えたり、深刻に悪い事柄ではないことを伝えること)

例：I told my boss a white lie and said that I was sick yesterday when actually I wasn't.

(上司に罪のない嘘を言った。昨日実際私はそうではなかったのに、病気だと言ってしまった。)

○a white-collar worker 「ホワイトカラー」

(→雇用されている従業員のうち、事務・営業・販売などの仕事に携わる事務労働者。いわゆるサラリーマン)

意味：a professional or office worker who wear a shirt with a white collar.

(白襟のシャツを着ている専門職員や事務職員)

由来：白い襟のワイシャツを来ていることから。

例：The recession has hit factory workers (blue-collar workers) much harder than white-collar workers. (不景気によって、ホワイトカラーよりもブルーカラー (工場労働者) 層の人々がより深刻な影響を受けた。)

※白についての補足

花嫁の結婚衣装は様式では白色が一般的だが、赤祖父 (1986) の著作にいろいろな色の衣装についての俗用が紹介されている。以下引用する。

Married in white, you have chosen right. (白＝良い婿だ)

Married in red, you'd better be dead. (赤＝死んだ方がまし)

Married in yellow, ashamed of the fellow. (黄色＝恋人を恥じている)

Married in blue, your love is true. (青＝真実の愛)

Married in green, ashamed to be seen. (緑＝恥さらし)

Married in black, you'll ride in hack. (黒＝霊柩車に乗る)

Married in pearl, you'll live in a whirl. (真珠色＝騒がしさのなかで過ごす)

Married in pink, your spirits sink. (ピンク＝元気喪失)

Married in brown, you'll live out of town. (茶色＝田舎に住む)

【白に関する分析】

先ほどウエディングドレスに関する俗用を引用したが、現在日本ではウエディングドレスの他に様々な色のついたカラードレスと呼ばれるものが登場し、お色直しの後に花嫁が着用しているケースが多い。俗用のことを考慮せず日本人の場合は自分が着たいものを着ており、自分の個性に似合ったドレスを着ていることが分かる。

そして、どんな色にも染まりやすいという特徴がある白色というのは、良い印象も悪い印象も

含めて、純粹で透明であるというイメージが熟語にも表れている。

Ⅱ-2-6 黒と black

- ・プラスのイメージ→重厚さ、フォーマル、正装、黒人の魂、黒字
- ・マイナスイメージ→死、闇、悪、不吉、黒幕、黒星、喪服、失望

○黒=black の表現

- ・Black Death (14世紀にヨーロッパに流行した黒死病・ペスト)・blackmail (ブラックメール、恐喝、ゆすり)・black market (闇市場)・swear black is white (黒を白と言い張る、大嘘をつく)・go black (目の前が真っ黒になる、意識を失う)

○日本語にすると黒=black に「直接は」つながらない表現

- ・brown sugar, unrefined sugar (黒砂糖)・a wirepuller (黒幕)・iris (黒目)・bread mold (黒カビ)・black propaganda (でたらめ、非合法)・black tea (旧:紅茶)
- ・Black Friday (凶金曜日、キリストが十字架にかけられた曜日で、最も忌む日。⇔Good Friday: Easterの前の金曜日だけはこう呼ぶ)
- ・Black Monday (意味1: Easter後の第一月曜日、1360年4月14日のEaster MondayにEdward IIIが兵士を率いてパリを攻めようとしたが、寒気のため兵士や馬が死んだためと言われる。2: 休暇後の新学期の第一月曜日。学生用語で、休暇あけの第一日目は憂鬱であることに由来する。3: 暗黒の月曜日。経済界では1929年のthe great depressionの始まったWall Streetの株の大暴落が月曜日であった。)

【黒に関するイディオム】

- ・black sheep (厄介者)・black ox (不幸、老齡、逆境)・black cat (危険)・black eye (目のまわりの黒いあざ、恥、不名誉)・black advance (選挙演説妨害)・black art (魔法)・black dog (憂鬱症、がっかり、不機嫌)・a black-letter day (厄日、不吉な日※a red-letter dayは休日)・black spot (自己多発地点)・blacktop (アスファルト道路)・black-letter day (嫌な月曜日)・black leg (いかさま師)・be not as [so] black as one is painted (評判ほど悪くはない)

○black and white 「善と悪をはっきりと区別する」

意味: think of everything or judge everything as either good or bad

(あらゆることに善か悪か判断したり、考えること。)

例: He tries to see everything in black and white although he knows this is impossible. (彼は不可能だと分かっているながら、あらゆることに善悪をつけようとする。)

○black out 「(黒く)ぬりつぶして消す、(舞台を)暗くする、意識を失う、音波を妨害する、停電、灯火(報道)管制をする、抹殺する」

意味: 1. to darken by putting out or dimming electric lights (電灯を消したり、照明を少し弱くして周りを暗くすること)

2. to lose consciousness (意識がなくなること)

例: 1. During the war people in the cities were forced to black out their windows so that the

enemy aircraft could not see them. (戦争の間、敵の航空機から見られないように、町にいる人々は窓の光を消すように強制されました)

2. Suddenly the man blacked out during the parade and had to be helped to a quiet place. (突然パレードの最中に男の人が意識を失ったので、その人を静かな場所へと移さなければいけませんでした。)

○black sheep (of the family) 「厄介者、家族や団体の面目をつぶすような変わり種」

意味：a person who is a disgrace or embarrassment to a family or group

(家族やグループで不面目だったり、厄介者であること)

例：The man is the black sheep in his family and is the only member who has not had a successful career and life. (家族の中で変わり者の彼は、成功したキャリアと人生を持っていない唯一の人である。)

○in the black 「黒字である」

意味：successful or profitable (好結果の、儲けの多い)

例：The company has been in the black since they began to adopt many new ideas to cut costs. (コスト削減の為に多くの斬新なアイデアを採り入れ始めてから、会社は黒字を維持している。)

【黒に関する分析】

白の反対色として黒が使われているからなのか、黒はあまり好まれない色の印象がある。しかしながらフォーマルな意味もあり、黒色は礼服などで使われている。このようにファッションなどで使われている色に関しても、印象や背景を辿っていけばそれぞれの国で使われている色の共通点や相違点が理解でき、最終的には言語表現にも反映されていくと考える。

II-2-7 茶色と brown

- ・プラスイメージ→落ち着き、日焼け、土に代表される自然な色
- ・マイナスイメージ→枯れ葉、保守、不毛、憂鬱

○日本語にすると茶色=Brownに「直接は」つながらない表現

- ・brown study (沈黙思考)・brown bag (持ち込みの弁当)・brown job (軍人、陸軍)・brown-bagger (ホワイトカラーの既婚の男性、ひどい「ブス」)・brown-noser (ごまをする人)・brown stuff (アヘン)・brown goods (ラジオ、テレビなど褐色を基調とする電化製品)

【茶色に関するイディオム】

○to be browned off 「うんざりさせる、いらいらさせる」

意味：to be bored, annoyed at something (何かにイライラし、うんざりしている)

例：I'm browned off with this place. There is nothing to do here. (私はこの場所にうんざりしている。何もすることがないからだ。)

○to be as brown as a berry 「こんがり日焼けした」

意味：to be pleasantly tanned by the sun (心地良いくらいの日焼けをしている)

例：The children are as brown as berries after 3 weeks at the seaside.

(3週間海辺にいた子どもたちは、こんがり日焼けをしている。)

○to be in a brown study 「もの思いにふけて」

意味：to be in a reverie, a dreamy, distracted state of mind, unaware of one's surroundings

(周囲のことに気づかず空想や夢に心を奪われたり、心を取り乱している状態)

例：Emily began to get worried about me for I simply moped around or was often in a brown study.

(エミリーは、私がふさぎこんで歩き回ったり、もの思いにふけていることがよくあったので、私のことを心配し始めた。)

【茶色に関する分析】

茶色は他の色と比べてイディオムが少なかった。また日本人が思う茶色は、外国人にとって茶色とは限らないという調査報告がある。鈴木氏(1990)はアメリカ滞在中に、茶色ではなくオレンジ色のレンタカーを借りることになっていたが、約束の10分を過ぎてもオレンジ色の車は一向に現れない。20分近く経過した時にホテル前の少し離れた男に茶色の車がいるのに気が付き、駆け寄っていくと、それは彼が借りる車だった。運転してきた男に「オレンジ色の車が来るといわれていたのに、茶色の車だったので分からなかった」というと、彼は平然と「この車は orange だよ」と答えた。

帰国後その時のレンタカーの色を何色だと思うのか調査したところ、日本人の先生全員(100人)が思わなかったオレンジ色の車は国によって、赤土色・茶色・褐色・チョコレート色・レンガ色・セピアなどと答えていた。彼によれば日本では黄色のトラがアメリカでは赤茶色になり、日本では赤色の金魚が欧米では orange 色と考えられる場合が多いという。色彩感覚が国によっていかに異なるかを物語る例だ。

II-2-8 ピンクと pink

- ・プラスイメージ→恋。女の子らしい。英語の場合は猥褻な意味はなく、赤ん坊の肌を連想させて、健康・活力・若さ・純真・新鮮さを象徴する。
- ・マイナスイメージ→酔っ払った。日本の場合は下品で猥褻な色。

○日本語にするとピンク=pink の表現

- ・ピンク・カラー (pink-collar)

※女性事務員。男性従業員を示すホワイトカラー、ブルーカラーなどから派生した語。pink-collar job で看護師・保育士・家政婦・秘書など伝統的に女性が多く占める職種を指す。

○日本語にするとピンク=pink に「直接は」つながらない表現

- ・the pink of fashion (流行の粋)・She is the pink of girls. (彼女は女性の華だ)・They are all in the pink of health. (彼らは全員ピンピンしている)・be in the pink of condition [health] (健康そのものである)・feel in the pink (はつらつとした気分である)・be in the pink of condition (絶好調である)・be on a pink cloud (幸福感に満ちている)・have a pink fit (すごくどぎま

ぎする、全く頭にくる)・pink pot(のんだくれ、酔っぱらい)・pink spiders(震えと幻覚)・pink tea (エリートたちだけの集まり、気取ったお茶の会、正式のパーティー)・pinky crooker (きざなやつ、気取ったやつ)・a pink slip(解雇通知※元々ピンク色の用紙が使用されたことから)

・(ピンクが使われている例文) Mary is in the pink. (メアリーはとても元気です。)

※シェークスピア『ロミオとジュリエット』の台詞、I am the very pink of courtesy.

(意識：俺は礼儀正しさでは模範的な人間だからな。) から来ていると言われる。

【ピンクに関するイディオム】

○pink elephant 「酒に酔ったときなどにみる幻覚」

意味：hallucinations supposedly typical of those experienced by a person who is drunk (酔っ払っている人が経験するといわれる、特有の幻覚)

由来：泥酔すると見えるはずのないピンクの象を見るということから、由来が来ていると言われている。ディズニーアニメの『ダンボ』(1941年)でも酔っ払ったダンボがピンクの象の幻覚を見るシーンがある。

例：Some have double vision ; others hallucinate, claiming to have been visited by pink elephants.
(ものが二重に見える人もいれば、ピンクの象が現れるなどと幻覚症状を訴えるものもいる。)

○tickled pink 「非常に喜ぶ」

直訳：くすぐられてピンク色になる。

由来：人は嬉しくなると、顔がピンク色になることから。

意味：be very pleased, thrilled, delighted (とても喜び、ぞくぞくすること)

例：She was tickled pink that you made the effort to go and visit her when you were in town.
(あなたが町にいる時に、彼女に会いに行こうとしていることに対して彼女はとても嬉しく感じた。)

【ピンク色に関する分析】

ピンクのイメージで猥褻な色だと日本が考える背景として、山田(1997)は中国の五行思想の影響で、赤と白の混合色、つまりピンクがその中間色であることから、そのようなイメージと捉えることが多いという。その一方で現在ではピンク色は女性に好まれ、女性らしい色だと考える人も多いのではないだろうか。だが他の色と比べると、言い回しとしてピンク=pinkを表す日本語の例が少ないことが分かった。

そしてディズニー映画での『ダンボ』の例を述べたがこれまで意識したことがなかったので、これから映画やTVを見る時には、このような表現があるかどうか着目して見ていきたい。

II-2-9 紫と purple

- ・プラスイメージ→高貴、荘厳、神秘
- ・マイナスイメージ→闇、俗悪

○日本語にすると紫=purpleに「直接は」つながらない表現

- ・blue tobacco smoke (紫煙)・red cabbage (紫キャベツ)・purple patch [passage] (華麗な文

章；美辞麗句を並べた [仰々しい] 文章)・go [turn] purple with rage (怒って真っ赤になる)

【紫に関するイディオム】

○be raised to the purple 「帝位につく、枢機卿に任じられる」

例：(良い例文が無かった為、省略)

○be born in the purple 「王侯貴族の家に生まれる」

例：It is worth nothing that he was clearly not born to the purple.

(明らかに彼が王家の生まれでないといっても、それ自体何の意味もない。)

○marry into the purple 「玉の輿に乗る」

例：fail to marry into the purple (玉の輿に乗り損なう)

【紫に関する分析】

上記の例(紫キャベツなど)をみると日本語の「紫」が英語の場合では red や blue で表され、purple として使われていない表現やその反対の例もあることが分かる。辞書にも書かれているが purple は日本語の紫色よりも赤紫に近い。英語の purple の指す色は、本来は「赤紫」であり、それを日本語で紫だと断言してしまうと食い違いが生じる。日本語で言う「紫」は、英語では violet がふさわしい。

日本では紫の染料が貴重だったことから紫が高貴な色とされた。実際推古天皇が定めた冠位十二階の中で最も高い身分の色として使われている。しかしながら日本において、紫は高貴というイメージはあるものの、紫に関する日本語の表現やことわざになったものは少ない。一方で英語圏では既述のように purple という言葉を使ったイディオムまでがある。

II-2-10 虹

様々な色をもつ虹に関して調べた。

虹と rainbow ～辞書的定義～

まずは日本語と英語の「虹」を、辞書ではどう定義されているのか調べた。

「虹」の定義

雨上がりなどに、太陽と反対側の空中に見える7色の円弧状の帯。色は赤・橙・黄・緑・青・藍・紫。大気中に浮遊している水滴に日光があたり光の分散を生じたもの。

(広辞苑より)

“rainbow”の定義

An arch of colors visible in the sky, caused by the refraction and dispersion of the sun's light by rain or other water droplets in the atmosphere. The colors of the rainbow are generally said to be red, orange, yellow, green, blue, indigo, and violet. (オックスフォード新英英辞典より)

日訳：空に見える色のアーチ。大気中の雨や他の水滴によって太陽光が屈折したり分散した

りして生じるもの。

日本語も英語も、ともに似た定義を述べており違いが分からない。しかしながら、山田(1997, p.68) は虹についてこのように述べている。以下引用する。

現代の日本人は虹を美しく、好ましいものと考えているようだ。しかし世界には虹を不吉な前兆、好ましくないものとする文化も少なくない。また日本では虹を空にかかる橋とみるようだが、それを巨大な龍とみる文化もある。実際に漢字で虹を虫偏で書くのは、これを蛇などと同じく虫の一種と見立てたからにほかならない。

昔の日本人が虹を虫と捉えていたことは知らなかったし、虹について肯定的に捉える国もあればそうではない国もあることが判明した。また虹の色の数に関しては5～7色など何色あるのか、国によって定義が異なる。鈴木(1990, p.60)によると、以下のようになるという。表でまとめてみた。

日本語	7色とされている
韓国語	7色とされている
フランス語	7色とされている
ショナ語(ジンバブエやザンビアなど。母語話者：700万人)	3色
バサ語(カメルーンのバサ族。母語話者：23万人)	2色
英語 (一般論)	7色とは決められていない。6色の考えもある。
英語 物理科学的な分野の本(百科事典も含む)	7色
ドイツ語	7色とは決められていない

【虹に関するイディオム】

○be end of the rainbow 「虹の終点(端っこ)」

意味：used to refer to something much sought after but impossible to attain

(懸命に努力するものの、達成することが不可能なものを指す時に用いられる)

由来：虹が大地と接するところには黄金の壺(a crock [pot] of gold)があるという言い伝えから、「人が探し求めているが到達[入手]できないもの」を言及するときに用いられる表現

例：be at the end of the rainbow ((物事が)かなわぬ夢である。)

○chase (after) rainbows 「虹(不可能なこと)を追う。手にいられぬものを夢想して過ごす。」

意味：pursue an illusory goal (非現実的な目標を追う)

例：Instead of chasing rainbows all the time, why don't you make a plan that's feasible?

(かなわぬ夢を追って時間を無駄にしてばかりいないで、実現可能な計画を立てたらどうなの。)

【虹に関する分析】

虹はキリスト教においては神の許しの象徴であり、アメリカ人やインディアンの間ではこの世からあの世への架け橋として考えられている。日本でも虹を明るい未来を示すものとして捉える人も多いのではないだろうか。英語の *be over the rainbows* (とても幸せ) や *chase after rainbows* (夢を追う) は日本人の発想とほぼ一致した表現といえる。虹を7色だと考えていない国々は、色の捉え方や数え方が国によって異なる為、虹の色にも数にも異相が生じると考えられる。それは地域や民族によって見え方や眼の能力が異なるからではなく、その文化がそれぞれの色をどう扱っているかによって心象が変わってくるからと考えるのが妥当であろう。要するに、見えている虹自体は同じでも捉え方が異なるということである。

Ⅲ 結論

今回の研究に関して色彩が由来になって、表わされているイディオムや表現が多いことが分かった。また何故その色が使われているのかも理解できた。国によって好きな色・嫌いな色は異なるだけでなく、それが歴史と深く関わっていることに注目したい。また個人個人に着目してもどの色が好きか嫌いかを基準にして、その人の性格や好みも分かり、身につけているモノにも反映されるだろう。さらに、色を調べていくにつれ政治経済や文化にも関連して、国旗に使用される色づかいにもある傾向がある。

- 傾向1 海に囲まれている国、美しい湖を持っている国……「青」を使用
- 傾向2 陽が短いなど、太陽に対する憧れがある国……「黄色」を使用
- 傾向3 イスラム教の国……「緑」を使用
- 傾向4 ヒンズー教の国……「オレンジ」を使用
- 傾向5 鉱物を産出する国……「黄色」を使用（鉱物を黄色で表現）
- 傾向6 赤道に近い国……「黄色」を使用（太陽を黄色で表現）
- 傾向7 「赤」が意味するもの……建国のために犠牲になった人々の血を象徴。太陽。
- 傾向8 「青」が意味するもの……平和・調和・純潔

このように国旗1つをとってみても、背景がそれぞれ異なる。色がもつ印象を追求することは、異文化理解につながるのだ。山田 (1997, p. 4) は異文化理解の事例として以下のように述べている。

「聞き耳を立てる」は英語でも *pick up one's ears* といいますが、目の色がさまざまである英米人の間では日本語の「目の色を変える」に相当する表現は考えもつかないそうです。自慢したり、威張ったりする意味の「鼻が高い」や「鼻にかける」を英語に直訳しても、もともと鼻の高い彼らには、通じません。また「私腹を肥やす」は、英語では「ポケットをふくらます」という発想になります。

つまり日本語の表現をそのまま英語に直訳しても上手く行かない時や、かえって誤解を招く時がある。こうした言語によって、違いや共通項が表れるところが言語の面白いところであると改めて感じる。

総じて語学の勉強は単純にその文法の知識を身に付け、なるべく多くの単語や熟語の数をこな

せば、その言語を完璧に使いこなせるようになれるとは限らない。なぜならその国の文化や国の発想の違いを知っておく必要があるからであり、知ろうとする姿勢が言語そのものと向き合えることになるからである。これまでの内容と絡めるのならば「色」というある1つのトピックから、英語と日本語の発想や表現の違うイメージのものもあれば、同じものも出てきた。それらの要因として浮かび上がるのは政治・経済・文化的背景や、日本と英語圏の国々の人々のものの考え方の違いであろう。

勿論英語と日本語の間には文法・音声・語彙の面で様々な違いがあるものの、こうした異文化理解があることによって、国語と別の言語との間のコミュニケーションの架け橋の存在になることはできよう。今回は色を通して様々な表現を研究することが出来たが、他の題材においても自分の母語や母国文化を客観的に理解することが出来るのではないかと、再認識することができた。

【参考・引用文献】

1. 赤祖父哲二 (1986.7) 『英語イメージ辞典』 (三省堂)
2. A・F・T 対策テキスト編集委員会. 著, 色彩検定協会. 監修 (2010.3) 『A・F・T 色彩検定公式テキスト 2 級編』 (A・F・T 企画)
3. Daphne M. Gulland and David G. Hinds-Howell (2002). *The Penguin Dictionary of English Idioms*, London, England: Penguin Reference Books
4. Dennis Oliver (2013.12最終更新確認). *Dave's ESL Café* (www.eslcafe.com/idioms/)
5. 小松寿雄; 鈴木英夫. 『新明解語源辞典』 (2011.8) 三省堂
6. 近江源太郎 (2009.12) 『“よい色” の科学—なぜ、その色に決めたのか』 (日本規格協会)
7. learn 4 good (2013.12最終更新確認). (www.learn4good.com)
8. 松村明; 小学館『大辞泉』編集部. 『大辞泉』 (1998.10) 小学館
9. 新村出 (2008.1) 『広辞苑第六版 (普通版)』 (岩波書店)
10. 日鉄住金総研株式会社 (2010.4) 『日本—その姿と心』 (学生社)
11. オックスフォード大学出版局 (2010.9) 『オックスフォード現代英英辞典第8版』
12. Sibagraphics (2013.12). *The Meaning of Colours*, Australia: (<http://www.sibagraphics.com/colour.php>)
13. 鈴木孝夫 (1990.1) 『日本語と外国語』 (岩波新書)
14. 小学館ランダムハウス英和大辞典第二版編集 (1993.11) 『小学館ランダムハウス英和大辞典』 (小学館)
15. 上野直美 「カラーコンシェルジュのカラフルトーク」 東急百貨店ホームページより (2013.07.) (https://www.tokyu-dept.co.jp/guestsolutions/column_color/201307.html/)
16. 山田雅重 (1997.10) 『日本語の発想・英語の発想』 (丸善ライブラリー)